



6月から7月にかけて行われた、各学年の授業を紹介します。また、第1学年では、7月1日に1年3組にて校内道徳授業研究会を行いました。今回は、1年生の感想を中心に紹介します。

第1学年 題材『シカト』(学研)

【ねらい】身勝手な考えや狭い仲間意識にとらわれず、広い立場に立って公正・公平で差別や偏見のない社会を築こうとする態度を養う。

【概要】ある日友人との会話の中で、友人からAさんへの悪口を聞いた「わたし」。Aさんと話したこともなかったのに「わたし」は、友人の言っていた「Aさんへの悪いイメージ」を持ってしまいました。しかし、廊下でAさんとぶつかったことを機会にAさんと話すことが増え、わたしの中で「Aさんへのイメージ」が変わっていきました。「わたし」は友人からのAさんの悪いイメージのままに、Aさんをシカト(無視)し、差別しかかっていたのです。「わたし」は人に左右されないものの考え方を学びました。



【授業後の感想や授業を通して考えたこと】

- その子の事をあまり知らないのに、その子の事を悪く言わない。人に流されない。相手の立場になって考え、いじめや差別されたら自分はどんな気持ちになるか考えればいい。自分の意見を貫き通す。
- 一人一人が思いやりの気持ちを持ち、「いじめ」という不公平なことをなくしていかなければならないと思います。人それぞれの意見があり、考えもあると思います。その意見に流されないことも自分の判断次第だと思いました。
- 中学校でも、いろんなうわさなどがあって、時々、そのうわさに自分も流されてしまっていたと思います。なので、人それぞれ違うけれど、自分の意思を強く持ち何事にも流されずに生活したいです。
- ぼくも、友だちからそのようなことを言われたら、悪いイメージを持ってしまったかもしれません。けど、今日の授業で人に左右されるのではなく、自分の目で見て、判断したいと思いました。
- 人の言うことが間違っているかもしれないと思うけど、他の人の意見を信じてしまうことがあるから、自分の考えをしっかりと持とうと思いました。
- 人の意見や、かげ口を気にせずに、自分らしくこれからの学校生活をしていきたいとこの道徳の時間に思いました。

第2学年 題材『ゴール裏の青春』(学研)

【ねらい】自己を静かに見つめ直し、自分の個性や適正をじゅうぶんに理解し、充実した生き方を求めようとする態度

を育てる。

【概要】中学校生活、最後の大会を迎えるわたしは、父から、「ポジションはどこだ？」と聞かれ、「球拾い」だと答える。そんな息子に対して「受験があるのだぞ、切り替えたらどうだ。」と言ってしまふ父。そんな息子の、レギュラーをとれない悔しさ、それでも12番を誇りに思い、頑張ることを決心した作文を父が読む。息子は、自分の置かれた状況の中で、自分の役割に誇りを持って前向きに考えることができるようになったと、息子の成長を感じる物語。

【授業後の感想や授業を通して考えたこと】

- その部活に所属している限り、自分自身にあった役割があることがわかった。私は今、嬉しいことにスタメンになることができている。チームの代表として試合にでていいるのだから、少しでも多くの点を取って、チームに貢献すること、最後まであきらめないことが私の役割だと思う。そして、いつも支えてくれるチームメイトに感謝をすることを忘れないようにしたい。
- 私は、今日の授業で、改めて部活のことについて考えさせられました。確かに、部活をしていると、楽しいことよりも苦しい事のほうが多いです。ですが、荒中のバレー部では、「勝つこと」以外にも「人として、どうあるべきか」を教えてください。なので、つらい事でも、頑張っていけば、大人になった時に、学んだことに助けられると思います。私は、最後まで部活動を頑張っていこうと思います。
- レギュラーになれないと分かっていても、続けていたのは、それだけサッカーが好きだったのだと思います。「自分には役割がある」という前向きな考えに変わったのは、すごいと思います、たとえ雑用でも、自分に与えられた役割だと思ってやるようにしたいです。

第3学年 題材『友情切符』（学研）

【ねらい】友情の尊さを理解して、心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合おうとする態度を育てる。

【概要】軽い気持ちでバレー部に入学した主人公。それを見透かして、「もっと真面目にやれ」などと言う、同じバレー部のKくん。ある日、部活をさぼって「わたし」はコンサートに行ってしまう。その事がKくんに知れてしまい、「お前、最悪だな」と言われてしまう。それを機に、部活に必死に取り組むようになる。大会で結果を残し、嫌な事を言うKくんへの「ありがたみ」を感じる。

【授業後の感想や授業を通して考えたこと】

- 友情は、ただ良い事を言って、ニコニコしているだけのものかと思っただけ、悪いことを指摘できるのも友情だとわかったので、良かったです。私も、そのようにして真の友達をつくれるといいと思います。
- 今日やってみて、改めて友情の大切さが分かりました。バレーでなくても、中途半端な気持ちで取り組むより、高い目標を持ってやった方がいいと思いました。また、何でも言い合える友人がいるといいなと思いました。
- 友情とは、お互いを尊重して、互いの悪いところを見つけ出し、共に直していくのが友達だと思います。自分にもいつかこういう友情と出会ってみたいです。
- 今回のこのお話は、バレーボール部のということもあり、高いレベルを目指してやっているK君とそれに応えられていなかった主人公との葛藤は、とても共感できた。この2人の衝突が絆を深めるきっかけとなるんだなと思った。